

令和5年度第1回
北杜市芸術文化スポーツ振興基金活用検討委員会

日時 令和6年1月15日（金） 午後1時30分～午後3時15分

場所 北杜市白州総合支所 2階会議室

出席者	協力金寄附者（サントリープロダクツ株式会社）	中村	光良
	地域団体代表者（地域委員会代表）	古屋	昭彦
	地域団体代表者（行政区長会代表）	鈴木	良長
	スポーツ団体代表者（スポーツ協会代表）	山田	輝夫
	文化団体代表者（文化協会代表）	白倉	久士
	学識経験者（芸術関係学識者）	船木	良
	学識経験者（芸術関係学識者）	上野	玄起
	学識経験者（芸術関係学識者）	松山	光
	市長が認める者（教育長）	輿水	清司
	市長が認める者（教育部長）	加藤	寿

欠席者 なし

事務局	生涯学習課長	田丸	敬一
	生涯学習課社会教育担当リーダー	石原	有佳
	生涯学習課社会教育担当	古屋	俊樹

議事

- （1）令和4年度基金活用事業実績について
- （2）令和5年度基金活用事業の進捗状況について
- （3）令和6年度基金活用事業選定基準について
- （4）令和6年度基金活用事業計画（案）について
- （5）その他

公開・非公開の別 公開

傍聴人の数 なし

審議内容

1. 開会
2. 委嘱状交付（市長より委員へ委嘱状及び任命書の交付）
3. 市長あいさつ
4. 芸術文化スポーツ振興基金活用検討委員会設置要綱について（事務局より説明）
5. 委員長、副委員長の選出
互選により、委員長に船木良委員、副委員長に古屋昭彦委員が就任
6. 委員長あいさつ
7. 議事

【船木委員長が議長となる】

（議長） 議事（1）令和4年度基金活用事業実績について 事務局より説明をお願いします。

(事務局) 【令和4年度基金活用事業実績について説明】

(議長) 議事(2) 令和5年度基金活用事業の進捗状況について 事務局より説明をお願いします。

(事務局) 【令和5年度基金活用事業の進捗状況について説明】

(議長) 議事(3) 令和6年度基金活用事業選定基準について 事務局より説明をお願いします。

(事務局) 【令和6年度基金活用事業選定基準について説明】

(議長) ここは丁寧に検討したいと思います。いつも通りで行くのであればこのままですが、ご意見を伺えればと思います。特になければ構いませんし、もしご意見あれば、再任の委員からよろしいでしょうか。

(委員) ここ2年ほどのプレゼンテーションを含めて、審査の中で何度か話し合いに上っている点がありました。その中で、非常に大きな企業でありながら、申請していることに関して、これはどういうものなのかという話題があったと思います。結論は出ないまま来ているのと、ルールに則って申請しているのも、特に申請団体が、資金が豊富であるということで省くということはしてこなかったが、継続的に、検討課題だったなと思います。

(委員) 私もその件でルールは作れない、内規的な、コモンセンス的な決め方をせざるを得ないのだろう、線引きは難しいだろうとは思っています。それが一点と、市民への一流の事業提供ということで、概ね100人以上を見込む事業とするのが毎年内規に入っていたと思います。計画時点は確か100人近くになっており、審査に通っていますが、実際に実績を見ると、100人を切っているものがあります。これが80人90人なら、いいのですが、10人、20人となると、それはいかがなものかと思います。例えば20万円の補助金を出して、10人の参加だったら、1人当たりの金額がものすごいです。200人来たら、その100分の1です。平等という観点から言うと、具体的にこうした方がいいという話ではないですが、検討・審査のときに、前年、前々年と連続であまりにも下回っている場合は、審査を受け付ける段階で事前に事務局の方でチェックを入れていただくというような形にしないと、参加者1人当たりにかかるコストが、100倍も違うと、問題な気がしますので、どういう方法がいいかということをお場で皆さんにご意見をいただきながら、方向性だけでもはっきりしておいた方がいいかなと思います。

(議長) ありがとうございます。何かこれについてご意見ありますか。
事務局へのお願いとしては、この選定基準は申請者への最初の段階でしっかりとした説明が大事になってきます。イベントを企画するときに、田舎に居ながら一流を体験できるという文言に踊らされて、田舎というところが、例えばですが、「東京の劇場であれば、1万円するチケットが北杜市は田舎だからその10分の1だ。」みたいな考え方はおかしいのかなとも思います。本当に一流で、そのイベントをここで開催してほ

しいということであれば、東京で1万円のチケットだとしたら、ここへ来ていただく足代であるとか宿泊代であるとかを考えると、2、3万円払わないといけない、体験できないというイベントで、それでもこちらから東京の劇場に足を運ぶとチケット代プラス交通費と食費と宿泊代も掛かり、1万円のコンサートに行くのに、3万円、5万円使わないと田舎からは行けないですね。それでも行っている方がいるのかもしれませんが。田舎で開催する意味は、演者に対して、私はその付加価値であるとか、あなたのプロフィールに書くことができるでしょうということのように、人口約5万人の北杜市が何百人に対してコンサートをしてきて、本当にこの澄んだ空気水の中で、演奏もしくはイベントをすることが非常に価値があると言っていきたいし、そういうことなのだろうと思っております。

(委員) この場は、活用基金の選考をする場所で、2年委員をさせてもらい、やはり、やりっ放し貰いっぱなしではなく、「今後こうしていけばもっとお客さん集まるのではないか。内容をこのように改善した方がいいのではないか。」というアドバイスのことも必要ではないか。スタートするときには、なかなか人が集まらなかったが、2年3年と人が集まり、内容も充実していくような、それが本当の意味での後押しになると思うので、大変ですが、各事業の報告だけではなく、アドバイスが市の方から、あるいはアドバイザーのような方がいてアドバイスをするということも、同時に考えていくべきだと思います。

(議長) 今日の場合では、令和6年度のこの基金の選定基準の内規を決定した中で進めなければならないので、委員からいただいたご意見も踏まえ、選定基準に関しては、案を取らせていただいてこれで進めたいと思います。委員の皆さんの方からは何かご意見ございますでしょうか。

(委員) 異議なし。

(議長) 異議なしといただきましたが、これがベストではないという部分では、常に問題意識を持ちつつ、申請する方に、明確に提示できるものがあればと思います。ただ現時点では、この(案)は取らせていただき、令和6年度についてはこのまま進めます。

(議長) 議事(4) 令和6年度基金活用事業計画(案)について 事務局より説明をお願いします。

(事務局) 【令和6年度基金活用事業計画(案)について説明】

(議長) 特になければ、このスケジュールで進めさせていただきますが、いかがでしょうか。

(委員) 毎年3月に予算が決まるので、4月1日交付のために3月に検討しますが、まだ煮詰まり切っていない案件が、推進事業を含めて、時期未定が多いです。予算取りに必要なので、このような申請になってしまうかもしれないが、もし可能であれば、事務局で予算はプールし、内容を固めてから、もう1度検討委員会を開く。例えば6月か、7月かそこででき

んと議論して、イエスかノーかということをしないと、ここで額だけ決まって、今の推進事業も未定のものがたくさんあります。これが市民の方の申請分になると、毎年そうですが、未定のものが増えると予定を信用せざるを得ないものの、実際は煮詰まっていないものも結構ある。例えば予算はプールをしておき、きちんと計画を詰めたもので、検討ができれば、より良いものになると思います。

(議 長) ありがとうございます。例えばスポーツ教室を実施したいというときでも、相手があるので、内諾は取れるかもしれないが、スケジュールなど難しい部分もあるのではと思います。実際に、募集期間の2月から3月の約1ヶ月間に申請し、そのタイミングで全てが固まっている主催団体も少なく、実行委員会を今から立ち上げるという段階での申請になる可能性も十分あると思います。ただ、予算的にも、前期・後期で分けるということは難しいです。事務局的には、このスケジュールで行くということでしょうか。仕方がないでしょうか。

(委 員) 基金として予算をプールしておけば、検討委員会が許可すれば基金から拠出ができますよね。

(議 長) なるほど。そうですね。

(委 員) 市の一般会計予算とは違いますから。

(事務局) ご意見いただき、ありがとうございます。今後2月から募集をし、3月の後半に皆様方に審議をしていただくという形をご提案させていただいていますが、以前は5月に開催していました。しかし、4月に実施する場合や、ゴールデンウィークなどで実施したいという希望のある事業も予想されます。そうなりますと、それ以前に検討しなければいけないと考えています。ですから、前年度に合わせて3月の下旬で、検討できればという意図でご提案をさせていただきました。

(議 長) 事務局説明ありがとうございます。秋冬もしくは来年の正月にやろうと考えているイベント、企画があったとしても、この段階で全てを決めることは非常に難しい、大変だと思います。ですが、逆に1年かけて、積み上げて実施するイベントもあれば、2年3年かけるものもあるかと思いますが、募集する側としては、いつでも受け付け、審議する訳にはいきませんので、現時点ではこのスケジュールでやらざるを得ないと思います。逆に事務局の方は、未定の場合は、できるだけを詰めて今分かる範囲での内容を聞き取っていただきたい。今期については、ご意見いただきましたが、このスケジュールでもよろしいでしょうか。

(委 員) 少なくとも前年実績のあるものは事前に判断できませんか。前回20人しか参加者がいないのに、また同じ申請が同じ予算額で申請することは問題ないのかとか、そこは議論しなくていいのでしょうか。

(委 員) 予算があるからやりますというのは話が逆だと思います。

(議 長) そうですね。それは全く逆ですね。

- (委員) 仮に3月に1回検討会を開催します。まだ詰まってない申請は継続審議で、7月頃にもう1回判断するなど、2回検討会を開催するということです。未定の事業を検討することは我々もできない訳です。仮みたいな形で置いておき、継続審議としたものを検討する場を作った方が、正しい判断ができるのではないかと思います。
- (事務局) 3月下旬にプレゼン形式で開催させていただき、申請を受け付ける段階では参加者数が少ない理由は何かを継続の場合については、確認をさせていただきたいと思います。新規事業で、日程も未定といった場合は、できるだけヒアリングを実施させていただきます。その申請については、3月のときに提案・報告はさせていただきますが、ご意見があった通り、内容に疑義があるということであれば、一度仮決定という方形を取りつつ、しばらく時期をおき、6月または7月頃にもう一度、検討委員会を開催させていただきたいと考えております。
- (議長) このスケジュール外に招集がかかって、ご検討をいただくことが発生するかもしれませんが、そのときにはぜひお時間作っていただき、お願いしたいと思います。この議事、(4)については(案)を取っていただき、進行させていただいてもよろしいでしょうか。
- (委員) 資料3-3に来年度の活用事業が結構ありまして、その中に100人以上の集客が見込める事業ということをここで記載した方が事務局側としても申請が来た段階で、あまりにも少ない人数であれば門前払いができるということに繋がりますので、ここに記載させていただいた方が事務局とすれば処理がスムーズにできるかと思いますが、委員の皆様方のご意見いただきながら必要であれば募集要項にその旨を反映させるということはいかがでしょうか。
- (議長) ありがとうございます。先ほどこの資料3-3については、(案)を取って前に進めさせていただきましたが、もし事務局として対象となる事業、①、②、③、その他とございますが、募集要項の中に、概ね100人ぐらいということ、ただ内容によって若干はその人数について100人を超えないと駄目だということではなくていいと思いますが、概ね100人を対象としたというような文言が入れるとすれば、ただ100人が良いか悪いかは少し微妙です。推進事業の報告書がありますが、補助金の額云々というよりは、BMXであるとか、少人数のイベントもありますが、内容についてはオリンピックまで繋がるような部分であったり、それが100人集まったから盛り上がるのかというところでもないものもあるように、非常に専門性ある、プロに特化した事業もありますので、音楽イベントなど広く、入場料を取って見たり聴いたり文化芸術の部分で広めたいところでは100人とするのがいいのかもしれない。ただし、スポーツの野球、バレー、バスケットボールのような、一般的なスポーツではない、非常にコアな、オリンピック種目でも飛び抜けたような種目がありますが、これは人数が多いから、みんなが喜ぶかということ、目的は少し違うものもあるので見極めは必要だと思います。ただ、文化事業のような広く大勢の人たちに知ってほしいというものに関しては、市内の100人ぐらいを対象とする。というような文言が必要なのかなと思います。この点について、ご意見その他何かござ

いますでしょうか。ただ、1人や2人を対象にというのは違うとは思いますが。

(委 員) 確かに市の推進事業を見ても、トップアスリート育成的なものや健康増進的なものと2種類あります。どこが線引きだということは、実はあまり有って無かったりします。内容を見ていただいて、そういう趣旨が濃いのであれば、例えば、BMXで100台も走らせたら大変なことになりますから、20～30が適正であればそれでもいいと思います。ビーチバレーも白州のコートで、100人も参加したらビーチバレーにならなくなるので、100人は無理だと思います。あとはそれぞれにかかるコストの問題です。掛かる費用を考えたときに、100人程度という内規を作るのであれば、あまり違うと何であればよくてこれは駄目なのかというツッコミが入りますよね。ですから内規で明確に作ろうとすると多分作れないと思います。

どんどん芸術やスポーツの種目が増えて、それに合わせたものを作らなければならなくなってしまい、それは出来ないと思います。100人程度という部分は残しておくものの、内容によってはその限りではないくらいの運用でいいのではないかと思います。100人を外してしまうと何でもいいという話になってしまいます。逆に100人を徹底させると何でも100人とすればいいのかという話になりますので、その辺は柔軟に対応した方がいいのかなと個人的には思います。

(委 員) 実際にイベントに行った中で、キャパがどうしても100人は入らないところで実施しているコンサートもあります。そこに無理やり100人入れるとなると安全上や消防法などの法律上の問題になってしまう。そこはケースバイケースだと思うのと、ネットを通じて配信する方法もあることを今後、市として何か検討、サポートしていくようなことを話題にしたことを思い出しました。そういう方法もあると思うので、実際に集めるのに100人とし過ぎてしまうと、無理して入る会場を探さなければいけないこととなると話は変わってくると思います。

(議 長) その他、何かご意見ありますか。内規に100人以上を見込むと書かれているので、事務局が受付をするときに、判断するための100人という判断材料ではありますが、可否の判断としては申請の段階でそれは無理ですよね。少人数だけれども、実施の意味合いや参加者にとって非常に意味合いがある。北杜市のブランディングといいますか、本当に一流の方が来て、少ない人数であっても何かイベントが行われる場合、事務局をはじめ、プレスリリースをかけて、北杜市のどこそこで誰れさんが来て、こんなことをやったということをメディア等で公表していただきたい。

(委 員) 参加だけで100人という収容人数という話になってしまう。ネットやSNSで配信し、視聴が確保できるものがあればいい。BMXも皆が皆やるわけではなく、見たい人もいます。ただ、やっていただく人にはしっかりとその準備をしていただくということです。

(議 長) SNSを通じてYouTubeで動画を配信しても、視聴回数が15回だったという話が違うと思います。BMXは非常にファンの方がいるので、少

しYouTubeにアップするだけで数千もしくは数万という世界中の人が配信を見た方が北杜市いいな、いつかはそこに住みたいな、もしくは行ってみたいと思う方はいらっしゃるはずなので、そこにしっかりと価値を見出すというか、実際に来るか来ないかは我々の力次第というか、本当に来て欲しいですが、本当に憧れられるということは、基金には書かれてはいませんが非常に大事だと思っています。皆さんの方からご意見なければ、議事の(4)については、このスケジュールで進めさせていただくということによろしいでしょうか。

(議 長) 同意を頂きましたので、次に進みたいと思います。

(議 長) 議事(5)その他について 委員一人一人から感想等も含めて、一言ずついただきたいと思います。

(委 員) 以前に山梨クイーンビーズが北杜市に来たときに、子どもたちにチケットを配っていただいて、その支援をしていただいたことがありました。非常に素晴らしい事業だと思っています。特に民間団体への補助金と、それから推進事業および体験事業への住み分けをする中で、活用事業を行っているということで、大変幅広く安定した形で事業が展開されているということを大変嬉しく思いましたし、北杜市のブランディング、本当に一流の芸術文化に触れる機会が今も推進されているということを本当に嬉しく思います。私も微力ですが、少しでもこの基金について広めていきたいと思っています。

(委 員) この基金は、去年で15年を迎えました。これだけ長く続くものは全国的にも多くはないはずで、かつ市民起点の取り組みをこういう形するのは全国的にも非常にユニークな企画だと思います。ゆえに、ベンチマークになるものが無く、暗中模索しなければいけないですが、なんのためにやっているかと言ったら、やはり人と人との繋がりを作る、維持する、結ぶ、そのためにこの基金をやっていると思っています。役立つために使いたいですし、ここの基金から使っているの知らないだろうけれど、結構誰もが知っている有名なイベントもいくつも出ていますので、ぜひ続くようにやっていければと思いますし、続けるためには決め方、やり方を公明盛大にしたいと思っています。

(委 員) 先ほどの話で鑑賞と教室の線引きが非常に難しいと思いました。ビーチバレーというと、中学校にはビーチバレー部は実際に存在しないですよね。バレーボール部の主将などに、教室に来てもらい広めてもらえればどうか。中学校の教員が2名参加していたので、市内に何校かある中学校の先生方にも来てもらい広めるような形をとった方がいいと思う。せっかく一流のアスリートに来ていただいているので、市内に全般的に広がっていけば、効果があったと評価ができると思います。

(委 員) 教室的なものに関する補助金を出すのにはどうしたらいいのか。一流と言われる人を呼んで、より多くの人に知ってもらうためにはどうしたらいいのか。というふうな二つの面があると思います。私はかけっこ教室に長く関係していますが、1回の申込みが2~3日すれば定員になる。50人の定員ですが、定員になった後は断るという状況が続いている。

できればもう少し募集人員を多くできればと思いますが、一流のアスリートを呼んでの指導は、今の予算では定員は増やしません。そんなことも考慮して、基金を拡充していただければと思います。

それからもう一点、次の年の計画を立てているはずが、申請をする時点で、計画が立っていない事業を認めること自体がおかしいと思っています。一流の人を探す、そして依頼することが、1月時点、プレゼン時点で決まらない事業は成功しないと思う。予算を取るときに、きちんとしていないと出来ないはずで、特に収容する建物などが必要となる事業では日程を決める必要がある。北杜市に居て一流の演奏が聴けるのはものすごく心が豊かになる。そういう意味で市民のために、一流のものをぜひ呼んでいただき、それぞれの分野で、計画を緻密に立てて事業者として申請をしていただきたい。

(委員) 昨年11月18、19日に北杜市の文化祭を須玉のふれあい館で開催した。コロナ禍の3年、いろいろな制約がありました。それともう一つ、地域の方々の構成人員が減っている。昭和44年から50年頃には、市内で、結構な人数がいました。須玉町の場合、現在会員数は300人を割っています。昭和40年代には4,000人いました。尺八や日舞、舞踊などの活動が多かった。今、年代的には70歳が主力です。ですから若い方々が芸術などに興味を持っていただき、それぞれの地区で盛り上げるような活動をしていただければと思います。話は変わりますが、生の歌を聴く機会がありました。やはり違うなど、テレビやCD、DVDを見ているのと違うなど。その迫力の凄さというのがありました。非常に感銘を受けました。ですから自分の生きがいや目標が作られることはいいことではないかと私は思いました。

(委員) 今から16年ほど前に平山郁夫が、この北杜市において絵画教室を一度だけ実施したことがありました。そのきっかけが市の絵画コンクールの審査を依頼され、作品が並べられた中に、へのへのもへじのような絵がありました。学校の先生方これはどういったご教育ですかと聞いたところ、自由を大切にしているといったニュアンスの話がありました。それで平山先生は私が絵を教えると。実はその教室の半年後に平山先生は亡くなりましたが、病気と戦っている中でした。どのような教室かという、最初に平山先生が話をして、後半期は清泉寮の原っぱに出て行き、私が書いているところを見なさいとその後子どもが、書いているのを私が見ると。こういう教育でした。先生が大切にしたのは、とにかくよく見なさいと。とにかくよく書きなさい。めいっぱい書きなさいと。先生は、君たちは決して画家になるわけではない。だけど、今日の機会を大切に、しっかり観察する、そういった心を身につけてほしいと話していました。実はその6年後に、その中の1人が東京芸術大学に進学し、先生が亡くなった後ではありましたが、美術館に報告をもらったときは、あのときの事業が生きたと、こういった振り返ることができた経験を思い出しました。今回、まだまだ勉強しながら皆様とともに検討を重ねていきたいと思いますが、大変光栄に思っています。頑張っ参ります。

(委員) 一流とは何なのかということも過去には議論になったと思います。有名な人を連れてくることだけが一流の芸術と触れるということではないと思っています。移り住んできた人やいろいろな市民が北杜市の中で芸術

のコンサートであったり展覧会を開催したり、やりたいという芽が出てきている、たくさん基金に応募してくるということ自体が、市が一流の芸術文化に一步、踏み込んでいるような気がします。ですから、一つ一つの提案される事業に関して可能性があるのであれば、応援してあげようという気持ちを持ってプレゼンテーションに挑みたいなど改めて思っています。

(委 員) ある街の教育長さんから電話があり、北杜市で芸術文化スポーツの振興基金があるようだが、うちもぜひ取り組みたい。その補助金はどこから来ているのかと問い合わせがありました。地域の企業や団体、個人の皆様が北杜市のことを思って協力してくださっており、それを活用させていただいていると話をさせてもらいました。地域が子どもやそれから一流の芸術文化を広めたいという思いを持って活動してくださっているという話をさせてもらいました。この基金を使って市民の皆さんに元気や活力を与えていただきたいなと思っています。演技をされる方々はそれぞれの思いを持っています。市民の皆さんに何を訴えてくれるのかなという部分を期待しているところです。もう一つは子どもたちにぜひ後に続くような、希望を与えてほしいとも思っています。それから、北杜市には様々な方が移住されていますので、前から住んでいる方々と芸術を通して交流をどんどん広げてほしいなと思っています。この基金は、単なる芸術だけの話ではないのだろうと感じているところです。

(議 長) 皆さんからのご意見感想等いただきました。本当に心強く、私よりも皆さんがここに座るべきだろうというふうに思いますが、後押し、ご指導いただき、しっかり北杜市のこの基金を有効に使わせていただき、有効に使うということで、どうぞこれからもよろしくお願いします。

閉会 午後3時15分